

<7月号企画>

3月11日。



日出彦

当日

あの2011年3月11日14時46分、自分は神奈川県厚木市にあるイトーヨーカドーに入ったところだった。1階の写真店¹横のエスカレータに乗ろうとした直後、揺れが始まった。これは大きいと感じて、不安定なエスカレータではなく、乗降口脇の木製ベンチに掴まって体を支えた。若い娘の悲鳴が響く中、自動の店内放送がこの建物は十分震度に耐える構造であることを繰り返し告げ始めた。1分以上続く長い揺れにいつもの地震とは違うものを感じて、両手で手すりに掴まれていると、いろいろな考えが頭を駆け抜けた。例えば、この僅か5分前には理髪店の椅子に座っていたので、この時でなくて助かったなどと考えていた。

揺れが収まって、最初に行ったことは携帯で自宅に電話することだった。呼び出し音に家人は出なかった。あきらめてビルの外へ出ると、周囲もこれといった被害はないようだった。5分ほど歩いて小田急の本厚木駅にいった。すでになりの人数の人が集まっていた、その多くは公衆電話の前に並んだり、携帯電話にかじりついていて。自分も再度家に電話を掛けてみたが、今度は話し中になっていた。小田急線は全線不通になっていた。駅員に詰め寄っている乗客もいたが、駅員はうまく説明できていなかった。電車区間で停電が生じていることは分かった。

携帯のワンセグでチェックすると、東北地方が震源地であることが分かった。三陸沖でマグニチュード8.4²といていた。この時はまだ津波の警報は出ていたが、被害は出ていなかった。時間はすでに3時を回っていた。電車は当分動かないと判断して、歩いて自宅に戻ることにした。普段でも1時間ちょっとの距離だ。ただ、このときは途中の相模川が渡れるか不安だった。状況からみて橋が落ちていることはないと思ったが、この目で見ないと信じられない。駅から約10分で県道40号線の相模大橋の袂に着く。車の数は普段とほとんど変わらない。川を渡ると海老名市に入る。直進してT字路を右へ行くと小田急線の厚木駅³に着く。案の定、電車は止まっている。再開の目処は付かないらしい。ここまで来ると農道を通ったりして最短コースで自宅に向かえばよい。ひたすら歩くが、平常時とあまり相違はない。ただ、市役所の広報スピーカーが火の元に注意するよう呼び掛けているのが違う。消防車のサイレンが遠くに聞こえると、自宅のことが心配になる。自宅に着

¹ 1ヶ月後、この写真店は倒産していた！ 震災とは関係ないとは思うけれど。ちなみに、イオン海老名店は店内が破損して消防法に触れるということで1カ月半位仮営業をしていた。

² その後、マグニチュード8.8、9.0と修正され、9.0で固定した。

³ どうでもよいけれど、小田急線厚木駅は海老名市にある。本厚木駅は厚木市にあるが…。

いたときは16時を過ぎていた。この時すでに東北地方に大津波が襲っていたのだ。

家内も帰っていて、あの時間に買い物に出ていたという。海老名駅近くの家電量販店で地震にあったと言っていた。ともあれ、二人とも自宅近くで地震に遭遇したことは不幸中の幸いだった。1日ずれていたら、自分は山梨県にある大学の研究室にいたと思う。とすれば、当日は自宅には戻れなかった筈であった。

津波被害

テレビやYouTubeで津波の映像を見るとき、流されていく自動車や家屋に人が相当数閉じ込められていたのではないかと思うと、背筋が寒くなる。心霊現象の映像よりも、津波の映像の方が怖い。人の生死を分けるのは運としかいいようがない。地震後、津波の襲来を予感していち早く高台に逃れた人と、気付かずに、あるいは間に合わなくて被害にあった人とどう違うのだろうか。津波の知識や経験を予め持っていた人のグループは助かる確率が持っていない人のグループよりも高くなるといえる。しかし、この人は助かり、あの人は助からないというのは、先験的には分からない。これは科学が進歩しても恐らく分からない。瓦礫の原の映像も怖い。あの中に多くの死体が閉じ込められていたと想像すると、いまはすでに収容されているとしても、怨霊が残っているような気がしてならない。

福島原発事故

これはわれわれ生き残った者への二次被害だ。引き金は地震と津波であるが、一連の事故対応は人災だ。なのに、誰も責任を取らない不思議な事故だ。これもYouTubeで映像を見ると、水蒸気爆発というのが、噴煙がきこ雲になっているのは、広島、長崎を連想させる。6月に入ってメルトダウンしていたと発表するのも不思議なことで、3月15日ころには最悪シナリオの技術予想できていたはずだ。3月頃の学識者解説で、そのような過激な意見を言う人も一人二人いたが、次に登場することはなかった。マスコミに政府の圧力があつたとしか考えられない。あの有識者による解説のもどかしさは、かつてオーム真理教の事件のときと同じ濃さだ。インターネットでノルウェーやドイツの気象情報で、福島原発からの放射性物質の空気中濃度マップをずうっと掲載しているが、なぜ日本では報道しないのだろうか。

実は、地震や津波という共通原因トラブルを原子力発電の安全委員会では甘く見ていた兆しがある。原発の安全性に関わっている懇意の教授に聞いたところ、原発プラントのコンポーネントが偶発的に故障したときにシステムが故障する確率を 10^{-8} 以下に設定していたという。偶発的というのは、津波のような共通的にすべてのコンポーネントを破壊する要因ではなく、バラバラに発生するときのことをいう。確率的には十分低いので問題なしとしてしまったらしい。今回の計画停電でも、電源という共通原因の停止が、家庭のすべての家電を使用不能にする恐ろしさをわれわれは経験してしまった。

放射線障害は持続性があることに問題がある。温暖化などの地球環境問題の仲間といえ

る。水俣病やイタイイタイ病などの公害と類似している。現在では、内部被ばくにスポットが当たっているが、ダイオキシンなどの化学物質の被害者と類似する。体内に残留する物質に影響を受ける。しかも、数年、数十年経ってから影響が現れる。

インターネットの情報によると、東京の放射線量は3月15日がピークであったといわれる。原子炉の水素爆発より3日ほど遅れている。そのとき、自分は仕事で名古屋にいた。このときの話をするとう長くなるが、またの機会にする。緊張の数日間であった。

まとめ

3.11以降、人生観が変わったかといわれると、そんなにガラッと変わっていない。授業で題材にしているスマトラ沖地震の津波やチェルノブイリ原発事故に代わり、学生にとって現実の災害や事故を体験して、環境問題の重要性が受け入れやすくなった点はある。今回、海外の諸国で暴動が生じないことが不思議がられたが、自分も不思議である。復興の地域による温度差が報じられる毎日の中での、菅内閣の迷走や国会の空転を看過している国民性やそれよりもその中にいて何もしない自分が不思議である。千年あまりの歴史の中で、日本人に埋め込まれてきた仏教的諦観の故かとも思う。しかし仏教以前に、農業国日本は自然の災害と共生してきた流れがあるのかもしれない。伊勢神宮の20年ごとの式年遷宮のしきたりはもしかすると自然の脅威への人のささやかな対策に関わるものかと思う。外来人との混血、帰化人の受け入れ、神仏習合、本地垂迹、……。われわれは多くの矛盾を受け入れ妥協して生き抜いてきた知恵と歴史を持っているので、現在のどたばたが過ぎると、20年先には東北地方は素晴らしく発展しているのかも知れない。そんな中での小笠原諸島と平泉の世界遺産登録は素晴らしいプレゼントになったと思う。

由 佳

あの揺れの最中、私は親しい友人と電話で話をしていました。鉄筋のショッピングモールの3Fにいる彼女と、木造平屋の自宅にいる私は、ほぼ同時に違和感を感じ、そしてその違和感はあるという間に恐怖になった。それでも、まさかこんな事態にまでなってしまうとはそのときの私には想像もつかなかった。

友人との電話を切ったあと、すぐに千葉の自宅と兄の携帯に連絡。実家はすぐに繋がり、無事が確認出来たけど、兄の携帯には何度かけても繋がらない。すぐに「お願い。大丈夫だってメールして」とメールすると「大丈夫だから心配するな。会社にいてすごい状況だけど俺様は元気！」と、兄らしい返信にホッとしました。

でも、それも束の間、テレビが映し出す東北地方の映像はあまりに残酷で、気が付くと涙が出ていた。津波はものすごいスピードと破壊力で、人や車や家を押し流していく。地面からは泥水が溢れ出し、高層ビルは余震の度に大きく揺れている。どうしようどうしよう、でも何もできない自分。何度も何度も手を合わせて祈った。でも、発信される情報は日を

追うごとに深刻さを増していくばかりで、特に原発事故の問題はいまだ解決の糸口がない。震災から 1 週間ほどは、とにかく動揺しながら過ごしていた気がする。どうしたらいいんだろう？と思いながら過ごすうちに、出先で見かける募金箱には、とにかく少しでも募金することにした。わずかだけど、このお金が出来るだけ早く役立てられるよう願った。

募金しながらも葛藤はあった。大切な人を家を会社を失った人に、義援金が届けられても何の救いになるのだろうか？ましてや行方不明者の数は莫大な数で、それを探す人々の救いにはならないのでは？それでも何もしないよりはいいのか？心はずっと揺れていた。

震災から 10 日ほど経っても、1 日に何度も余震が続き、絶え間なく地震速報が届く。その頃から、友人や知人から様々なチェーンメールが届くようになる。放射能の雨が降り注ぐとか、有毒ガスを含んだ雨が降るとか、不安をあおるような内容のあとに、「出来るだけ多くの人にこのメールを廻して欲しい」とある。

それ以外でも、関西電力がどうのこうの、東電がどうのこうので、とにかく節電節水して下さい、というような内容のものもあった。その文章を鵜呑みにした友人たちは、その文面をそのままメール転送する。だから、何通も同じメールが届いた。でも、何かがおかしいと感じた。誰にもメール転送はしなかった。そのおかしさの原因は、少しずつ輪郭を帯びてきた。溢れている情報に錯綜されていないか？その情報の精度は確かなものか？あまりの惨状に、我を忘れてしまって、出てくる情報全て鵜呑みにしていないか？

東電は、会見する度に言うことが変わるだけじゃなく、スポークスマンも変わる。燃料棒は無事、溶けていません、と言っていたのに、地震発生の 5 時間後にメルトダウンが始まっていたと言う。マスコミは、首相バッシングを続け、原発の是非を問うが首相をバッシングしても被災者の心は癒されないし、原発の是非も、どこかで情報がコントロールされる感が否めない。

そして、1 ヶ月ほど経ったころ、被災者のためのチャリティー・・・などを催そうとする知人が出てきた。その意図は素晴らしいはずなのに、なぜか彼をサポートしようという気がしない。なぜか最初はわからなかったが、よく考えたら答えは明白だった。彼はいろんな方に恩恵を受けているが、あまり周囲に感謝していないし、家族をあまり大事にしていないうし、返す意思が伝わらない借金がある。そんな人がチャリティーなんかを主催すると、面白いことに、出来るだけ多くの義援金を届けたい、よりも、売名目的のような人が集まってきた。私財を捧げた人や、自分の生活を削ってボランティアに出向いた方々は、本当に素晴らしいと思う。

でも、まずは自分の身近な人とキチンと関わることの方が先だと思う。自分の身の回りをまず大切にすることを置き去りに、被災者に支援を！というのは順番が違うと思う。

地震から 4 ヶ月を迎えて、変わったこと、気付いたことは、入ってくる情報が確かなものなのか、自分でかなり気をつけるようになった。そして、出来るだけ普通の生活をしよう、と心がけた。とにかく、買い置きなどは意地でもしない、と固く誓った。

地震発生後しばらくの間は、水やトイレトペーパーの棚は、たいていは空っぽで、補充

された瞬間に人だかりになったが、おうちにあるうちは買わない、無くなったときに探して買えばいい、といつものようにを徹底した。節電や節水は、付けっぱなし、出しっ放しにしない、という普段の生活と同様のレベル。

悲しみ過ぎていても、誰も喜ばないし、いつものように暮らしていく。そして時々、被災した方々を思って祈る。出来る限り、身近な周囲に思いやりを持って助け合って生きる。余裕があれば募金、そんなふうにご過ごしています。

和

震災が起きた3月11日、それから2ヶ月が経とうとしていた5月の連休に、既に全面復旧していた新幹線に乗って夫の実家がある青森へと出かけた。福島、宮城、岩手と過ぎていく中、内陸を走る新幹線の車窓からはブルーシートが掛けられた家並みが見える程度で、被害の様子はあまり見られず、なんだか少しほっとした気分になった。

それからまた2ヶ月近く経った7月5日、今度は仕事でいわきの手前、ちょうど水戸といわきの中間くらいにあたる磯原へ仕事で出かけた。こちらは常磐線、海沿いを走る。震災から4ヶ月が経とうとしているのに、まだブルーシートが掛けられた家々がけっこう見える。磯原駅ではキオスクも閉まり、エレベーターは使用禁止、天井や壁、あちこちに崩落の痕跡が残る。

普段なら出張ついでに磯原縁の野口雨情記念館に足を延ばすところだが、今回はなんとなくそんな気も起きず、写真を撮るのすらやはり気がひける。



そして、出張から帰った7月9日。いつもならこの時期には笠井さんの「シネマン坊」のトークショーが開かれるのだが、今年は映画の予告編上映会ではなく、急遽「笠井信輔の被災地報告」と銘打って、フジのテレビ番組「とくダネ」で放送したビデオを改めて編集したものを流し、笠井さんの被災地報告が行われたが、残念ながら観客はいつもの半分くらいしかいないように見えた。

被災地と取材というのも、難しい問題もつきまとうようだが、メディアの報道がなければわたしたちは被災地の様子を知ることができない。映像の力は大きい。「野球の底力」と表現した楽天の選手もいたが、メディアの底力を見せて、息長く報道を続けて行ってほしいと思う。



y u k o

どうやら東日本で大きな地震があったらしい・・・

仙台にお友達がいるので心配になってメールを送った。その日はお稽古日だったのでこんな大惨事になっているとは知らずメールの返事来ないな～とのんきに考えていた。お稽古に来たお弟子さん達に大変な事になっていると教えられ、初めてこの地震が尋常のものではないことを知った。

TV ニュースに映し出される衝撃的な映像。津波の恐ろしさを目の当たりにした。信じられない光景に目を疑った。DG の皆さんは大丈夫だろうか・・・茨城のネット友達は・・・いろいろな思いが心を重くした。幸い知人達の無事も確認でき、ひと安心。とは言え連日続く余震や増え続ける死者行方不明者に心も晴れず、鬱々とした日が続く。

加えて原発の事故も大きな進展のないまま不安な状態。

あれから 4 カ月以上たったというのに、私は心から楽しんだり喜んだり出来ないでいる。これといった事があるわけでもないのに・・・日本が復興にむけて立ち上がりつつあるというのに。

先日私がやっている句会の時、日本は成長し過ぎたのよ、あげくに何でも機械に頼る。

古き良き時代とか言うけれど、ここあたりで昔の暮らしに戻るのもいいかも。扇風機もなかなか快適だし、少々の所なら歩いて行くようにしてるのよ・・・と言う人がいた。

昭和より知恵を拝借夏座敷 という句を投句された若い方がいて本当にそうだと思う。

水打ちてひと日の幸を招き入れ という句もあった。打水すると温度が確かに下がる。昔はみんな家の前に水を撒いて涼を取ったものだ。

あと・・・縁側 縁台 浴衣 夕涼み 端居 あ、季語オンパレードになった。

尊い命と引き換えに私達は学ばなければならないと思う。もちろん天災は防ぎようもなく、自然の力には私達は太刀打ちできない。でも地球を日本を救う術は確かにあるように思う。

今回の震災はそういう事を私達に教える為の警鐘のように思えてならない。

